

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

619-452

事務事業名	みどりの景観整備事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)	
部等名	産業経済部	課等名	林務課		包含する細々目	1	6	2	2	27	4	5,765	
政策	5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり												
施策	52 身近な自然と生活環境の改善												
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議		不要							
		事業期間	17	年度～	年度	関連計画 条列等							
森林・林業基本法、飯田市森林整備計画													

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	集落、農地、幹線道路から概ね700m以内の森林	集落周辺の森林(ha)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了は終了年度とする	
			19			
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	荒廃した集落周辺の森林(里山)の保全管理が図られる	整備された集落周辺の森林(ha)	18目標	19	最終目標	
			18実績		19目標	10
			23目標	10	23実績	
			18目標		最終目標	
		18実績		19目標		
		23目標		23実績		

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	野生鳥獣の隠れ家や通り道となっている荒廃森林等の藪払い、不用木の除去をすることで、サル、イノシシ、クマ等による農林産物被害を防止すると同時に良好な森林景観を形成する。	鳥獣被害防止緩衝帯整備事業 森林と農地の境界周辺の荒廃した里山林における藪払い、除間伐 上村・南信濃・伊賀良	整備された面積(ha)	15.23
	18年度の実績			
	19年度計画	鳥獣被害防止緩衝帯整備事業 森林と農地の境界周辺の荒廃した里山林における藪払い、除間伐	整備された面積(ha)	10

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	国庫支出金		
	特定 県支出金	4,165	4,900
	起債		
	その他		
	一般財源	760	865
事業費計(A)		4,925	5,765
人件費	正規職員所要時間	18年度 100	19年度 100
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	358	358
	トータルコストA+B	5,283	6,123

特定財源内訳や補足事項	野性鳥獣総合管理対策事業(県8.5/10)
-------------	-----------------------

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	水や緑が守られ増える	身近な自然は守られているかと感じる市民の割合	現状値	57.7	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	65
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
集落周辺の里山林は自然環境の保全や動植物の生息など生態系の維持に大きく寄与していることから、地域で保全維持活動の推進を図り、整備する必要があるため	農地果樹地帯と森林の境界地域の藪払い(森林整備)を実施した地区が鳥獣出現回数が激減した	人家、農地周辺の森林について、野生鳥獣被害防止の対策と危険木や枯損木の処理について市民から要望がある。 特に農家から一定の効果があるとして要望が強い。

## 【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) <input type="checkbox"/> 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) <input type="checkbox"/> 余地がある (その理由) 広く市民が認識し、活動が広がればさらに成果が向上する。
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) <input type="checkbox"/> 必要性がない (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) <input type="checkbox"/> 影響あり (その理由) 集落周辺の里山の荒廃が進むと自然環境や動植物の生育環境の悪化につながる可能性がある。
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) <input type="checkbox"/> 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) <input type="checkbox"/> 統合不可能 (類似事業名、理由) 里山整備活動支援事業
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) <input type="checkbox"/> 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) <input type="checkbox"/> 可能 (その理由) 今後市民や地域が取り組めば可能
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) <input type="checkbox"/> 妥当である (受益者とその理由) 里山の荒廃を改善していくことは市民全体に恩恵がある。
	集落周辺の森林の不要木を伐採除去することや、荒廃森林等の藪払い、不用木の除去することで、農林産物被害を防止すると同時に良好な森林景観を形成する。	里山林は昔から利用することで維持生産活動を行ってきたため将来の自然環境保全には重要	里山林は自然環境の保全や動植物の生息など生態系の維持に大きく寄与している	森林の持つ公益的機能の高度発揮や生態系の維持、里山の保全、農林産物鳥獣被害の軽減は市民生活を守る意味での責務がある。	

## 【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	平成17年度から実施したが、鳥獣被害防止緩衝帯整備は一定の効果があり、今後も継続する。  上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法

### 【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

### 【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	